

ITOCHU ENEX
TEAM IMPUL

Race Report

2018 SUPER FORMULA Round 7
2018.10.27 sat ~ 28 sun

HOSHINO RACING

関口が最後まで攻め続け、敢闘の8位

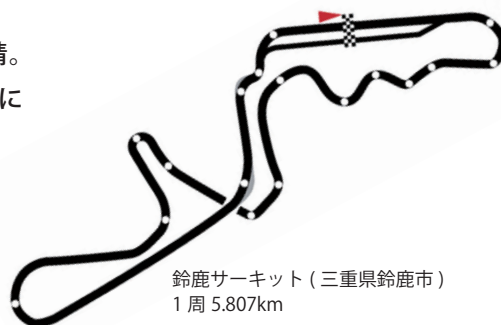
ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

No.19 関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi

No.20 平川 亮 Ryo Hirakawa

全日本スーパーフォーミュラ選手権最終戦「JAF鈴鹿グランプリ」が、三重県の鈴鹿サーキットで開催されました。前戦を終えた時点で、ITOCHU ENEX TEAM IMPULはチームランキングで2位。逆転タイトルが狙える位置につけています。またドライバーズランキングでもNo.19関口雄飛とNo.20平川亮が同ポイントで、ランキング4位と5位。どちらのドライバーにもシリーズタイトルの可能性が残されています。

予選日の午前中こそ曇り空でしたが、その後はすっきりとした快晴。WTCR(世界ツーリングカーカップ)と併催されたこともあって、両日ともに多くのファンでサーキットは賑わいました。



鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)
1周 5.807km

10/27 (土) 公式予選

天候：晴れ コース：ドライ

気温／路面温度：Q1開始21℃／25℃

前日夜の雨が上がり、曇り空で迎えた今シーズン最後の予選日。朝のフリー走行ではコースに雨が残るセミウェットコンディションでしたが、走行後に空を見上げたら抜けるような青空。気温も一気に上昇し、サポートレースの予選、決勝とイベントが進むにつれてコースもどんどん乾いていきます。公式予選が始まる頃には、濡れたところはほとんどなくなり、全車スリックタイヤを選択しました。予選は通常通りQ1～Q3で争われるノックアウト方式で、最初のQ1では20分間のあいだに出走全19台から14台にしばられます。定刻通り12時35分にスタートしました。

セッションがスタートすると、ピットロードに並んでいたマシンが続々とコースイン。ITOCHU ENEX TEAM IMPULの2台もコースに入り、まずは入念にタイヤを温めます。しかし開始から5分を過ぎた頃、No.5 野尻智紀選手 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING) のマシンが大量の煙を吹いて、ピットロードの入り口寄りにマシンを停めました。これにより赤旗が振られ、セッションは一時中断となります。原因はオイル漏れ。ピットロードやコースにもオイルが落ちたため、清掃に約15分を要しました。

12時55分、残り14分5秒で再開。まだアタックをしていないITOCHU ENEX TEAM IMPULの2台は、ニュータイヤ(ミディアム)を装着。決勝レースでのチーム戦略上、アタックできるのは1度だけです。No.19関口、No.20平川の順にコースへ入り、きっちりとタイヤに熱を入れていきます。残り約10分。まずは先行するNo.19関口からアタック開始。先ほどのオイルが残っていたのか、シケインで少し後輪がスライドしたものの1'39.717をマークしてこの時点で6番手。この時点で残り8分。続けてNo.20平川がアタック。こちらもシケインでブレーキをロックさせてしまいましたが、1'39.185で3番手に。2台ともピットに戻り、他のドライバーのタイムを見守ります。結局、残り2分を切ってセッション終盤にアタックをかけたマシンが好タイムをマーク。No.19関口は17位まで下がってしまいQ1敗退となりましたが、No.20平川は9位でQ2に進出します。

約10分のインターバルをはさんだ13時20分。8台に絞られる7分間のQ2がスタート。Q1でのタイムを見ても、セッション終盤にコースコンディションが上がり、好タイムが期待できるため、どのマシンもすぐにはコースインしません。残り時間5分でコースインするマシンが現れ、No.20平川がコースに入ったのは残り4分30秒を切ってから。1周でタイヤを温めて、すぐにアタックに入ります。コントロールラインに帰ってきた彼のタイムは1'38.323。危なげなく5位でQ3に進出しました。

そして最後のQ3。7分間のセッションが始まってもやはりどのチームもすぐには動きません。No.20平川もコースに入ったのは残り3分30秒を切ったあたりでした。先陣を切ってアタックに入ったのですが、セクター1で他車に引っかけリクリアラップがとれません。チェッカーフラッグを受けながら刻んだタイムは1'38.553。Q2からタイムを伸ばすことができず、最終的に6番グリッドからのスタートとなりました。



10/28(日) 決勝

天候：晴れ コース：ドライ

気温／路面温度：21℃／23℃

決勝レース距離5.807km×43Laps=249.701km

快晴の決勝。スタート前のグリッドには多くのファンが詰めかけ、マシンがまったく見えません。このレースは今年のスーパーフォーミュラレースの見納めであると同時に、これまでの共通シャシー、SF14にとっても最終戦となります。今シーズン最終戦、平成最終戦、SF14最終戦…。様々な意味を持つ最終戦を目に焼き付けようとしてくれるファンの方々に頭が下がります。

スーパーフォーミュラの決勝レースでは、ソフトコンパウンドとミディアムコンパウンドの2種類のタイヤを必ず使用しなくてはなりません。最低1回はピットインをしなくてはならず、チームの戦略によってスタート時に装着するタイヤが変わってきます。今回、ITOCHU ENEX TEAM IMPULは2台ともミディアムコンパウンドを選択。グリップ力を発揮するまで時間がかかりますが、長距離に渡って性能を発揮できるタイヤです。スタート直後は不利になるものの、レース状況に応じてフレキシブルにピットインのタイミングを設定する作戦です。

JAF会長による開会の宣言、国歌の演奏。そして鈴鹿市長のコールでエンジンに火が入れると、サーキットの空気が一変し、緊張感が一気に高まります。14時15分の定刻、フォーメーションラップが開始。全車が路面の状態を確かめながらゆっくりと隊列を組んで走ります。全車がグリッドに戻り、オフィシャルがグリーンフラッグを振ると、エンジン音がひととき高まり、レッドシグナルがひとつずつ点灯。5つのレッドシグナルが点いたところブラックアウト！ レーススタートです！

6番グリッドの平川はミディアムタイヤのグリップ力不足によってソフトタイヤの2台にかわされ、オープニングラップで2ポジションダウンして8位。一方17番手からスタートの関口はひとつポジションを上げ16位。2人とも虎視眈々と巻き返しを狙います。

6周目を終えると、No.7トム・ディルマン選手(UOMO SUNOCO TEAM LEMANS)が早くもピットイン。8周終了時にはNo.18 小林可夢偉選手(carrozzzeria Team KCMG)もピットに入り、関口は無理せず14位に上がります。その後も各車のピットインにより、15周目終了時点で平川が5位、関口は9位にまで順位を上げました。



そして16周目。平川がNo.50 千代勝正選手 (B-Max Racing team) を抜いて4位に上がると、関口はシケイン入り口でNo.65 伊沢拓也選手 (TCS NAKAJIMA RACING) をアウトからかぶせてアグレッシブにパス。さらに上位陣が続々とピットインしたことで、レースを折り返した24周目を終えた時点で平川が2位、関口は4位までポジションを上げていました。ただ、この時点での上位5台はすべてピットインをしていません。

28周を終え、平川がピットイン。タイヤ交換と給油を済ませます。あとは最後まで上を目指して走りぬくだけ。ピットを出るとNo.36 中嶋一貴選手 (VANTELIN TEAM TOM'S) に真後ろにつかれますが、グリップの出ないアウトラップにもかかわらず何とか抑えきると、30周目には1'42.039のファステストラップを出して前を追撃にかかります。そしてすぐさま、No.4 山下健太選手 (KONDO RACING) をパスして6位、32周を終えてNo.2 国本雄資選手 (JMS P.MU/CERUMO・INGING) がピットインしたことで、関口とNo.37ジェームス・ロシター選手がまだピットに入っていなかったため実質的には3位に浮上したその瞬間！ 右リアから白煙が上がったかと思うとタイヤがバースト！ストレートでスピンし、1コーナイン側のガードレールにクラッシュ。レースを終えてしまいました。

チームは冷静沈着です。33周を終えて関口がピットイン。タイヤ交換と給油をして出ていきます。8位でコースに戻ったアウトラップでタイヤを温め終えた35周目、いきなり1'41.729のファステストラップ！ 続く36周目にさらタイムを縮め1'41.205を叩き出して猛追。37周目には先行するNo.6 松下信治選手 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING) の背後に迫ります。そして38周目のシケイン入り口。関口はサイドバイサイドでアウトから抜きにかかったのですが、軽く接触してしまいます。その衝撃で一瞬ギアが抜けてオーバーテイクはならず。逆に4秒以上も先行されてしまいます。

それでも関口はレースをあきらめません。マシンに鞭を入れ、41周目には再びNo.6 松下選手の真後ろにつきます。激しくプッシュしますが、さすがに残りの周回数が足らず、8位のままチェッカーフラッグを受けることに。ドライバーたちは最後まで守りに入らず、アグレッシブにレースを戦ってくれたのですが、タイトルのかかったレースとしては不本意な結果に終わってしまいました。

ITOCHU ENEX TEAM IMPULは最終的にチームランキング4位、ドライバーランキングはNo.19関口雄飛が4位、No.20平川亮が5位という結果でシーズンを終えます。この無念を大きな力として、これまで以上に精進し、新型車になる来シーズンは必ずや雪辱を果たす所存です。

今シーズン、皆様から頂いた暖かい応援は本当にチームの力となりました。ありがとうございます。来シーズンも変わらぬご声援をいただけたら、これに勝る幸せはございません。

TEAM IMPUL Next Race Information

●SUPER GT 最終戦 11/10(土)～11(日) ツインリンクもてぎ

www.impul.co.jp  @IMPUL_official  IMPUL.official



ドライバーからのコメント



No.19 関口 雄飛

Yuhi Sekiguchi

ファステストラップを記録しながら
17位から追いつけるも8位が精一杯。
これで2年連続の年間ランキング4位となりました。
TEAM IMPUL、ご支援、応援頂いた皆様、
1年間本当にありがとうございました。



No.20 平川 亮

Ryo Hirakawa

6位から3位まで追いつけ、
これからという所でタイヤがバーストしてしまいました。残念無念。
1年間、20号車への応援ありがとうございました。初めてのチームでの参戦、
噛み合ったり噛み合わなかったりとアップダウンの激しいシーズンで、
今年の目標であった優勝は達成できませんでした。
来年は、、、、皆様、応援ありがとうございました！





2018 年 協賛会社様 ご支援 誠にありがとうございます。 敬称略・順不同

TOYOTA

YOKOHAMA

ITOCHU ENEX CO.,LTD.

Mobil 1

カースタレンタカー



エネフ



homenex

carenex



ENKEI

**NGK
SPARK PLUGS**

PUMA



JVCKENWOOD

WPC
METAL SURFACE TREATMENT

広島トヨペット
Happiness in Your Life

KeepPer
COATING FOR SMART CAR LIFE

登戸石油

CHOOSE NanoTech
High Performance Coating

ThreeBond

JUNACK

Ki i V A
ENERGY DRINK

SUGIZAKI
transport

J IMPUL



10/27 (土) 公式予選

天候：晴れ コース：ドライ

気温／路面温度：Q1開始21℃／25℃



■ Qualifying				2018.10.27		
Po	No	Driver	Team/Type	Q1	Q2	Q3
1	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	1'38.477	1'38.008	1'37.909
2	4	山下 健太 Kenta Yamashita	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	1'39.460	1'38.286	1'38.193
3	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	1'38.826	1'38.095	1'38.300
4	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	1'39.068	1'38.511	1'38.435
5	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	REAL SF14 Honda HR-417E	1'38.575	1'38.180	1'38.524
6	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	1'39.185	1'38.323	1'38.553
7	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	KCMG Elyse SF14 TOYOTA RI4A	1'39.022	1'38.454	1'42.751
8	64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	1'38.715	1'38.570	1'58.156
9	2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	1'38.941	1'38.597	
10	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	DOCOMO DANDELION M6Y SF14 Honda HR-417E	1'38.853	1'38.680	
11	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	1'39.407	1'38.761	
12	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	1'39.467	1'38.786	
13	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	1'39.082	1'38.888	
14	37	ジェームス・ロシター James Rossiter	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	1'39.479	1'39.220	
15	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	1'39.492		
16	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	1'39.654		
17	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	1'39.717		
18	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	B-Max Racing SF14 Honda HR-417E	1'39.717		
以上予選通過						
19	5	野尻 智紀	DOCOMO DANDELION M5S SF14	2'04.858		

車両：SF14 / タイヤ：ヨコハマ

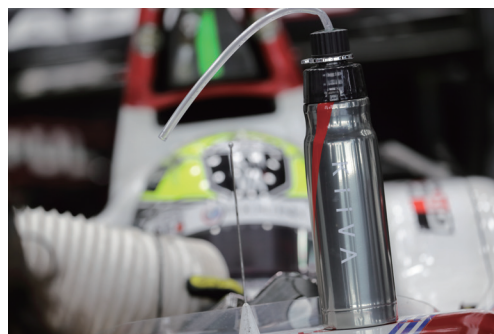
予選通過基準タイム (107%) 1'45.370

10/28(土) 公式予選

天候：晴れ コース：ドライ

気温／路面温度：21℃／23℃

決勝レース距離5.807km×43Laps=249.701km



■ Race								2018.10.28
Po	No	Driver	Car Name/Engine	Laps	Total Time	Delay	Gap	Best
1	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	43	1:14'40.652	200.62km/h		1'42.042
2	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	43	1:14'41.306	0.654	0.654	1'41.668
3	4	山下 健太 Kenta Yamashita	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'08.523	27.871	27.217	1'42.526
4	2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'08.874	28.222	0.351	1'42.297
5	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'10.750	30.098	1.876	1'42.961
6	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	REAL SF14 Honda HR-417E	43	1:15'15.634	34.982	4.884	1'42.943
7	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	DOCOMO DANDELION M6Y SF14 Honda HR-417E	43	1:15'16.196	35.544	0.562	1'42.934
8	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'17.198	36.546	1.002	1'41.205
9	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	DOCOMO DANDELION M5S SF14 Honda HR-417E	43	1:15'42.044	1'01.392	24.846	1'42.235
10	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	B-Max Racing SF14 Honda HR-417E	43	1:15'42.448	1'01.796	0.404	1'43.215
11	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'44.517	1'03.865	2.069	1'43.832
12	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	43	1:15'45.962	1'05.310	1.445	1'42.988
13	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	KCMG Elyse SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'56.380	1'15.728	10.418	1'42.989
14	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'57.305	1'16.653	0.925	1'43.552
15	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	43	1:15'57.632	1'16.980	0.327	1'43.534
16	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	43	1:16'08.770	1'28.118	11.138	1'44.225
17	64	ナレイン・カーティケ ヤン Narain Karthikeyan	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	43	1:16'14.683	1'34.031	5.913	1'43.661
以上完走								
18	37	ジェームス・ロシター James Rossiter	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	33	57'35.684	10Laps	10Laps	1'43.086
19	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	32	56'02.576	11Laps	1Lap	1'42.039

RANKING

■ Driver ranking											
Po	No	Driver	Rd1	Rd2	Rd3	Rd4	Rd5	Rd6	Rd7	Total	
1	16	山本 尚貴	11	-	10	1	2	0	14	38	
2	3	ニック・キャシディ	2	-	8	11	6	2	8	37	
3	1	石浦 宏明	5	-	0	8	11	1	0	25	
4	19	関口 雄飛	8	-	0	3	0	6	1	18	
5	20	平川 亮	0	1	0	5	8	3	0	17	
6	36	中嶋 一貴	1	-	6	4	-	0	4	15	
7	5	野尻 智紀	6	-	3	0	1	2.5	0	12.5	
8	4	山下 健太	0	-	1	0	3	1.5	6	11.5	
9	2	国本 雄資	0	-	0	6	0	0.5	5	11.5	
10	6	松下 信治	0	-	0	0	5	0	2	7	
11	18	小林 可夢偉	0	-	3	0	-	4	0	7	
12	8	大嶋 和也	0	-	0	2	4	0	0	6	
13	17	塚越 広大	3	-	0	0	0	0	3	6	
14	7	トム・ディルマン	-	-	5	0	0	0	0	5	
15	65	伊沢 拓也	4	-	0	0	0	0	0	4	
16	64	ナレイン・カーティケヤン	0	-	4	0	0	0	0	4	
	50	千代 勝正	0	-	0	0	0	0	0	0	
	15	福住 仁嶺	0	-	-	-	0	0	0	0	
	37	ジェームス・ロシター	0	-	0	0	0	0	0	0	
	15	ダニエル・ティクトウム	-	-	0	0	-	-	-	0	
	18	中山 雄一	-	-	-	-	0	-	-	0	
	7	ピエトロ・フィッティパルディ	0	-	-	-	-	-	-	0	
	36	J.P.デ・オリベイラ	-	-	-	-	0	-	-	0	
	15	阪口 晴南	-	-	-	-	-	-	-	-	

■ Team ranking											
Po	Team	Rd1	Rd2	Rd3	Rd4	Rd5	Rd6	Rd7	Total		
1	KONDO RACING	2	-	9	10	9	3.5	14	47.5		
2	TEAM MUGEN	10	-	10	1	2	0	13	36		
3	JMS P.MU/CERUMO・INGING	5	-	0	14	10	1.5	5	35.5		
4	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	8	-	0	8	8	8	1	33		
5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6	-	2	0	6	2.5	2	18.5		
6	VANTELIN TEAM TOM'S	1	-	6	4	0	0	4	15		
7	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	-	5	2	4	0	0	11		
8	TCS NAKAJIMA RACING	4	-	4	0	0	0	0	8		
9	carrozzeria Team KCMG	0	-	3	0	0	4	0	7		
10	REAL RACING	3	-	0	0	0	0	3	6		
	B-Max Racing team	0	-	0	0	0	0	0	0		

